

やなぎだてつべい
柳田鉄平さんがアメリカで農業研修

3月15日、アメリカへ農業研修に行く柳田鉄平さんが市長を表敬訪問しました。研修期間は1年半となる予定。柳田さんは「世界の農業や、その経営について学びたい」と意気込みを話していました。



口蹄疫発生から一年、消毒グッズを配布

3月18日と19日、口蹄疫発生から一年を前に、市自衛防疫推進協議会とJAこばやし消毒セットを市内の全畜産農家に配布しました。消毒薬は様々な家畜伝染病の予防にも効果があり、畜産業の保護と防疫意識の啓発が期待されます。



市内小中学校に交通安全グッズを交付

3月31日、市交通安全対策協議会が市内小学校に横断旗、中学校にスポークリフレクターを交付しました。受領した小林小の園田修司校長は「子ども達の交通安全に役立てたい」と話していました。



小林地区危険物安全協会が下敷き寄贈

4月5日、小林地区危険物安全協会が、119番等を学ぶ下敷きを寄贈しました。同会の児玉龍之介会長は「燃料など生活に欠かせない危険物の知識を学ぶ一助になれば」とあいさつ。下敷きは市内の小学校新一年生に配布されました。



小林地区交通安全協会が反射タスキ寄贈

4月4日、小林地区交通安全協会が反射タスキを寄贈しました。同会の溝口誠二会長は「交通事故防止に役立ててほしい」とあいさつ。反射タスキは市内の中学校新一年生に配布されました。



練習試合とはいえ、強豪校同士の迫力あるプレーが連続。合宿には千原台高校のほか、佐賀清和高校も参加しました。

秀峰高校の新体育館が完成
県外のハンド強豪校と合宿

3月19日と20日、小林秀峰高校の新体育館完成を記念し、県外のハンドボール強豪校との練習試合が公開されました。スポーツのまちこばやし推進協議会が主催したもので、スポーツ合宿誘致へのPRとして企画。熊本県立千原台高校の森田勇監督は「自然豊かで快適。また訪れたい」と話していました。



「勇気をもって…1日30人と話そうよ」と題して行われたパネルディスカッション。初鹿野聡さんがコーディネーターを務めました。

生き心地のよい地域づくりを。
自殺対策フォーラム開催

3月26日、須木総合ふるさとセンターで自殺対策フォーラム in こばやしが開催されました。NPO法人こばやしハートム代表理事の尾崎幸廣さんが「自殺対策には、互いに手をとり合う地域づくりが必要」とあいさつ。4名のパネリストによるディスカッションやHARUのコンサートが行われました。

生産能力が国内最大級の
木質ペレット工場が完成

3月28日、間伐材などの林地残材を火力発電の燃料となる木質ペレットにする宮崎ウッドペレット株式会社の製造工場（細野）が完成し、竣工式が行われました。生産能力は年間2万5千トンを国内最大級。4月7日から稼働しており、2013年度までに24人を新規雇用する予定です。



宮崎ウッドペレット株式会社は平成22年1月に市の誘致企業に認定。昨年7月、工場建設に着工していました。

春の風物詩 まきばのさくら祭りに1万人の人出

3月26日と27日、まきばの桜まつり（瀬戸山貴行会長）が開催されました。会場では、多彩なステージイベントや特産品が並ぶさくら市、購入者の投票で決めるグルメコンテストも実施。桜は寒波等の影響で一分咲きながら、1万人が来場し、春の一日を満喫していました。



みやざき花の女王梁田麻弓子さんも花の苗配りに参加しました。



昨年11月に行われた植栽は、市口蹄疫復興対策支援プロジェクト協議会と㈱NPKの共催事業で、須木区の園児、小中学生も参加。

口蹄疫復興への願いを込めた
チューリップが花咲く

3月12日から4月30日まで、すきむらんどでチューリップまつりが行われました。口蹄疫復興対策として植栽されたチューリップは3万球で、ランチバイキングや宮崎駅からの直行バス等の特設。3月20日に行われた春一番コンサートには約800人が訪れ、5組のミュージシャンが春を演出しました。



(写真上) 新企画としてキッズコーナーに設置された巨大エア遊具。(右) 開花が遅れた桜も1週間後には見事なトンネルに。(下) 会場では45店舗が、ご当地のグルメ等を販売しました。

